



## 清熱剤

『わかる中医学入門』 152-154 頁

### 清熱剤とは

清熱瀉火剤、清熱解毒剤、清熱利湿剤、清虚熱剤などに分かれる。  
清熱作用を持つ中薬を主体に配合し、過剰な熱を除去する。

びゃっこかにんじんとう

**白虎加人参湯**（医療用漢方製剤）

#### 胃熱を除去しつつ気陰を補う清熱瀉火剤

気分熱盛とは衛気営血弁証における「気分」の熱証のこと。六経弁証においては「陽明系証」（頭部、鼻、口腔、脾胃）にあたる。白虎加人参湯は補陰しつつ、気分熱を取り除く。

組成：石膏 知母 人参 粳米 甘草

効能：清熱瀉火 益気生津

主治：胃熱 気分熱盛 気陰両虚

症状の目安：口渇、多飲、多食、上腹部痛、口臭、歯痛、便秘、高熱、強い熱感、顔面紅潮、発汗など

りゅうたんしゃかんとう

**竜胆瀉肝湯**（医療用漢方製剤）

#### 肝胆の湿熱を除去する清熱瀉火剤

肝胆の失調によって生じた熱が湿邪と結びつくと「肝胆湿熱」となる。肝系が通る生殖器や泌尿器に症状が現れやすい。熱の主な原因はアルコールの過剰摂取、暴飲暴食やストレスなど。湿の原因は刺激物、脂っこいものの摂りすぎなどが挙げられる。

組成：竜胆草 黄芩 山梔子 沢瀉 木通 車前子 当帰 地黄 柴胡 甘草

効能：清肝瀉火 疏肝解鬱 清熱利湿

主治：肝胆実火 湿熱下注

症状の目安：頭痛 目の充血 目やに 耳鳴り 黄疸 口が苦い 胸脇苦満 イライラ 怒りっぽい 不眠 尿の色が濃い 排尿痛 残尿感 頻尿 排尿困難 濁った尿 濃い色の尿 黄色の帯下 陰部湿疹など

おうれんげどくとう

### **黄連解毒湯**（医療用漢方製剤）

#### **三焦の実火を瀉す清熱解毒剤**

「実熱」が対象。三焦の実火を瀉すことで全身性の炎症をとりのぞく。また皮膚の炎症、化膿性の炎症などにも適応する。苦寒薬が多いため、胃腸が弱い人は要注意。

組成：**黄連 黄芩 黄柏 山梔子**

効能：清熱瀉火 解毒 清熱化湿 止血

主治：熱盛（実熱） 湿熱 血熱妄行

症状の目安：高熱 顔面紅潮 眼の充血 口や喉の渴き 口が苦い イライラ 不眠  
のぼせ 動悸 不眠 心煩 胸脇苦満 口内炎 黄疸 悪心 嘔吐 腹部膨満感 腹痛  
頻尿 排尿痛 鼻血 吐血 下血 皮下出血など

さんおうしゃしんとう

### **三黄瀉心湯**（医療用漢方製剤）

#### **実熱があり便秘傾向の人に。**

黄連解毒湯と同じく「実熱」の熱毒をとる。大黄が配合され清熱瀉下、涼血作用がある。便秘がちな人に使うべき方剤。

組成：**黄連 黄芩 大黄**

効能：清熱瀉火 解毒 瀉下 清熱化湿 止血

主治：熱盛（実熱） 湿熱 血熱妄行

症状の目安：黄連解毒湯とほぼ同じ。便秘傾向（熱秘）が強い場合に使う。

ほうふうつうしょうさん

### **防風通聖散**（医療用漢方製剤）

#### **解表しつつ裏熱をとりのぞく清熱解毒剤**

防風通聖散は体表には風邪が鬱滞し、体内には熱邪が鬱積した状態を解除する。

組成：**茯苓 防風 荊芥 麻黄 薄荷 大黄 芒硝 石膏 黄芩 山梔子 連翹 桔梗  
滑石 芍薬 当归 川芎 白朮 生姜 甘草**

効能：疏風解表 瀉熱通便

主治：風熱壅盛 表裏俱実

症状の目安：悪寒 発熱（無汗） 頭痛 目の充血 鼻づまり 口が渴く 喉が痛い  
咳 痰 胸悶 口が苦い 湿疹（化膿性） 尿が濃い 便秘など

おつじとう

**乙字湯**（医療用漢方製剤）

### 血分の湿熱をとる清熱利湿剤

血分の湿熱が下焦にたまり湿熱が脈絡を阻滞すると痔核となり、湿熱が脈絡を灼傷すると下血が生じる。このようなタイプの痔の治療に使われることが多い。

組成：柴胡 升麻 黄芩 大黄 当归 甘草

効能：清熱化湿 升堤（昇堤）

主治：血分湿熱

症状の目安：痔核 裂肛 出血 陰部の痒み 湿疹 蕁麻疹など

さんもつおうごんとう

**三物黄芩湯**（医療用漢方製剤）

### 陰液を補い熱を冷ます清虚熱剤

陰虚火旺に適応し、虚熱による各種の症状やのぼせを改善する。※虚熱とはある種の興奮や亢進を含む概念であり、自律神経の亢進や脳の興奮に伴う症状を含む。

組成：地黄 黄芩 苦参

効能：滋陰清熱

主治：陰虚火旺

症状の目安：手足のほてり、のぼせ、微熱（特に午後～夜間）、寝汗、尿の色が濃い、便秘、不眠、寝汗、動悸、イライラ、心煩、焦燥感、皮膚疾患（炎症性・化膿性）感染症、産褥熱、肺結核、出血など